

令和7年度 川崎市 英語教育改善プラン

目標

外国人とのコミュニケーションを積極的にとることのできる児童の育成

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ALTの活用について、パフォーマンステストの補助に生かすなど、積極的に行っている様子が見られる。

(参考 R5:96.5%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、英語の学習に対する好感度に改善が見られる。

(R5:66.7%⇒R6:68.6%)

未だ改善が必要な点

①ICTの活用について、児童による、発話や発音などの録音・録画の実施率が低く、言語活動を通した指導に結び付けた活用に課題が見られる。

(参考 R5:66.7%)

②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の人数は増加したが、割合が減少している。

(R5:9.9%[19/192名]
⇒R6:8.9%[27/302名])

2. 要因分析

①中核英語教員(CET)研修にALTを招き、授業での具体例を踏まえた研修を実施した成果と捉えている。

②市作成の実践事例集や各種研究授業等において好事例を共有・公開したことで、より多くの教師の授業改善につながったことが一因と考えられる。

①端末を効果的に活用して言語活動を通した指導に結び付けることについて、具体的な実践例が十分に普及していないことが一因と考えられる。

②目標達成に向け、教員採用試験の加点制度の周知等が未だ十分ではなかったことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動におけるALT活用促進

中核英語教員(CET)研修において、複数のALTを講師とした小グループによるワークショップを実施し、ALTを活用した実践事例を協議するなど研修の充実を図る。

②調査結果を踏まえた正確な分析と学校支援

全国学力・学習状況調査とともに、本市独自の川崎市学習状況調査の結果から4段階の学力層ごとの好感度を分析する。また、学校訪問や研究授業等を通し、更なる授業改善ができるよう学校を支援する。

①ICT機器を活用した言語活動の推進

学習者用デジタル教科書の活用、発話や発音などの録音や録画など、ICT機器を活用した言語活動について、市作成の実践事例集や各種研究授業、学校訪問等を通し、先進的な取組を市内の学校に発信する。

②求められる英語力を有する教員確保の促進

教員採用試験において一定の英語力を有する者に対する加点制度を継続するとともに、教員志望者を対象に本制度の更なる周知を図る。

令和7年度 川崎市 英語教育改善プラン

目標

外国人とのコミュニケーションを積極的にとることのできる生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：60.1％⇒R7：61.0％）

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ICT機器の活用について、発音・発話などの録音・録画機能の活用状態に改善が見られる。
(R5:80.8%⇒R6:94.2%)

②ALTの活用について、授業外の活動や学校行事での生徒の交流での活用が進んでいる。
(参考 R5:90.4%)

未だ改善が必要な点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていると捉えている生徒の割合が十分ではない。
(R5:75.0%⇒ R6:80.0%)

②遠隔地の人との個別の会話におけるICT機器の活用状況に課題が見られる。
(R5:3.8%⇒R6:7.6%)

2. 要因分析

①各種研修や要請訪問等で生徒自身が発話等を振り返り、学習改善に生かすためのICT機器の活用について周知した成果と捉えている。

②担当者会等で、授業外でのALTの活用や学校の希望に応じたALTの複数配置の取組について促した成果と捉えている。

①話すこと[やり取り]の指導場面において、一部の学校において、即興で伝え合うことよりも、事前に原稿を準備したやり取りに重点が置かれていることが考えられる。

②話すこと[やり取り]の指導場面において、ネイティブスピーカーを相手にしたアウトプットの場面の設定が十分でないと捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

①ICT機器を活用した言語活動の推進

学習者用デジタル教科書の活用、発話や発音などの録音や録画など、ICT機器を活用した言語活動について、研究推進校の支援や実践事例集への事例掲載などを通し、先進的な取組を市内の学校に発信する。

②ALTの効果的な活用の推進

授業内・授業外でのネイティブスピーカーとのコミュニケーションのさらなる充実が図れるよう、学校の希望に応じたALTの複数配置の取組を推進し、その好事例を担当者会等で周知していく。

①調査結果を踏まえた正確な分析と学校支援

教育課程研究会や外国語教育指導力向上研修において、指導の重点を内容の伝達に置きながら、活動中の言語使用について形成的な評価を行うことについて指導・助言を行う。

②ICT機器を活用した言語活動の推進

ALT派遣業者と連携し、学校の希望に応じて日常の授業の中でも遠隔地にいる講師とオンラインで接続し英会話をするなど、アウトプットの機会を増やすことができるようにする。

令和7年度 川崎市 英語教育改善プラン

外国人とのコミュニケーションを積極的にとることのできる生徒の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 67.9%、B1以上 25.8% ⇒ R7 : A2以上 74.0%、B1以上 32.0%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①学習者用デジタル教科書の活用状況に改善が見られる。
(R5:60%⇒R6:100%)
- ②普通科、国際科以外の専門学科でのALTがパフォーマンステストに参画する状況に改善が見られる。
(R5:75%⇒R6:100%)

- ①普通科、国際科以外の専門学科において、ALTの授業外の活動や学校行事での生徒の交流での活用に課題が見られる。
(R5:50%⇒R6:75%)
- ②授業での教師の英語での発話状況に課題が見られる。
(参考「発話の50%以上を英語で行っている」全学科 R5:52.4%⇒R6:63.4%)

2. 要因分析

- ①各教科等研究協議会を通して、生徒が端末を個別の課題に応じて活用する事例を周知した成果と捉えている。
- ②外国語教育指導力向上研修や各教科等研究協議会において、ALTを活用したパフォーマンステスト等について周知をした成果と捉えている。

- ①ALTを活用した活動の計画において、普通科、国際科が優先されており、それ以外の専門学科においてALTとの交流の場面が少なくなっていることが考えられる。
- ②授業を実際のコミュニケーションの場面にするための教師の英語使用の意識が各学校に十分浸透していないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①ICT機器を活用した言語活動の推進
学習者用デジタル教科書の活用をはじめ、発話や発音の録画など、ICT機器を活用した言語活動について、各教科等研究協議会において引き続き各学校へ周知していく。
- ②言語活動におけるALTの活用促進
引き続き、各種研修等において、ALTを活用した授業やパフォーマンステストの在り方について協議するなどしてALTの活用促進につなげる。
- ①全学科でのALTの活用促進
学校の希望に応じたALTの複数配置の推進や、各教科等研究協議会・外国語教育指導力向上研修でのALTの効果的な活用方法についての情報交換や協議等を通し、全学科の授業内・授業外でのネイティブスピーカーとのコミュニケーションのさらなる充実を図る。
- ②英語で行う授業の推進
各教科等研究協議会の公開授業等を通して、授業において実際のコミュニケーションの場面を作り、生徒が英語に触れる機会を増やすための教師の効果的な英語使用について指導・助言を行い、教師の英語使用の意識を高める。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

川崎市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	70.0	66.6	72.0	67.9	74.0		76.0		78.0		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30.0	25.3	30.0	25.8	32.0		34.0		36.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80.0	69.0	80.0	78.0	81.0		82.0		83.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	80.0	73.7	80.0	100.0	82.0		84.0		86.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	100.0	88.9	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	70.0	66.7	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85.0	83.8	85.0	85.4	86.0		87.0		88.0		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85.0	52.4	85.0	63.4	86.0		87.0		88.0		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	57.0	54.1	59.0	60.1	61.0		63.0		65.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85.0	76.9	85.0		86.0		87.0		88.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	80.0	75.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	80.0	65.4	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60.0	53.3	60.0	54.8	61.0		62.0		63.0		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90.0	79.5	90.0		91.0		92.0		93.0		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0		
		公表(%)	80.0	63.2	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	80.0	69.3	100.0		100.0		100.0		100.0	